

# かぞへ

公立羽咋病院広報誌 2011 第35号



病院理念

人にやさしく 信頼される病院

### 基本方針

私たちは 皆様の権利や意思を尊重し、納得のいく医療を提供いたします。  
私たちは 地域に必要な医療を提供し、健やかで豊かな地域社会の実現を目指します。  
私たちは 安全で良質な医療を提供するため、日々研鑽いたします。

日本医療機能評価機構認定病院  
羽咋郡市広域圏事務組合

は く い  
公立羽咋病院

〒925-8502 石川県羽咋市の場町松崎24番地  
TEL(0767)22-1220 FAX(0767)22-5598  
<http://www.hakuihp.jp/> E-mail:hakuihsp@po.incl.ne.jp

地域災害医療  
センターに指  
定されました

# 平成23年度挨拶

病院事業管理者 鵜浦 雅志



平成23年度のスタートを迎えました。今年度は医師3名、看護師他数名の病院職員の交代がありました。担当職員が交代になる患者様には、ご迷惑をおかけしますが、新職員も羽咋病院理念「人にやさしく、信頼される病院」の実現に向かって努力をしていきます。これまで同様、安心して病院を利用して頂きたいと思っております。

この度の東日本大震災にあたり、羽咋病院では被災地の救援活動として、これまでに災害医療チームを3班派遣しました。今後も救援活動に参加をしていきますので、診察の予定変更等が発生することも予想されますが、ご理解のほどお願い致します。

また、今年度は耐震化Ⅱ期工事を開始します。病院西側に新棟を増築し、増築部分へ救急室、手術室、一部の外来、病棟を移す予定です。新棟への移行終了後に現在の管理棟は撤去し新しい玄関を設けることを計画しており、完成は平成25年度秋以降になると思われまます。この工事期間中、外来駐車場の確保問題をはじめ、ご利用の皆様に、いろいろとご迷惑をおかけするものと心配しております。ご迷惑を最小限にとどめるように努力を致しますが、工事期間中は、病院を利用される皆様にご協力をお願いすることもあるかと思われまます。そのときには、何卒、宜しくお願い致します。

羽咋病院は、公立病院として、地域の関係者と連携するとともに、金沢・七尾地区の病院ともネットワークを形成して、健やかで豊かな地域社会の実現に職員全員で努めていきます。本年度も宜しくお願い致します。

## 新採職員紹介

よろしくおねがいします

内科医師 乙田 敏城



谷口先生に代わり、金沢大学附属病院の生活習慣病治療チーム『DiET』(Kanazawa University Diabetes Education and Treatment【日本語訳：金沢大学糖尿病教育・治療チーム】)よりきました乙田 敏城(おとだ としき)です。専門は糖尿病・内分泌です。ここ羽咋の地でも、患者さんと共にバランス生活(健康を維持するための理想的な生活)を徹底的に追及していきたいと思っております。

外科医師 大西 敏雄



医師として4年目の春を迎え新しい土地からのスタートが開始しました。生まれは九州の宮崎であり海に近く港町は小さいころから慣れ親しんだ風景でした。知らない土地であるため見るものも新しく好奇心と不安を駆り立てられます。まだまだ医師としても人としても未熟であり新しい土地での自分自身の飛躍のため努力していきたいと考えております。スタッフの皆様には今後ともお世話になっていくと思っておりますがどうぞ宜しくお願い致します。

小児科医師 北岡 千佳



今春より金沢医科大学病院から羽咋病院に赴任しました。小児一般・小児循環器(心臓病)を専門としています。羽咋の子供たちが健やかでいられるよう、微力ではありますがサポートしていければと思っています。

内科研修医 井村 紗江



学生生活を終え、4月からここ羽咋病院で社会人としての第一歩を踏み出せることをとてもうれしく思っています。皆様とのふれあいを大切にしながら日々頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。



事務長 平野 久晴



このたびの人事異動で、事務長として参りました平野です。3月までは羽咋市役所に勤めており、病院業務は初めてとなります。不慣れな中、多少戸惑っておりますが、職務を果たすことができるように努力してまいります。

当院では「人にやさしく、信頼される病院」を理念に、取り組みを進めております。今後も、皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

総務課主事 備後 智尋



この春から新社会人として事務の仕事に携わることになりました。病院を裏側からしっかり支えていけるよう、まずは自分にできることを確実にこなし、新しい事もどんどん吸収していきたいと思っています。よろしくご指導お願いします。

理学療法士 澤田 諒



私は富山県で生まれ、ここ石川県で理学療法士となるために育てていただきました。これから、育て親への親孝行を行うつもりで頑張っていきたいと思っております。新社会人として至らない点があると思っておりますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

看護師 澤田 幸枝



2階東病棟に勤務させてもらっている澤田です。笑顔を忘れず、患者さんに安心してもらえるように看護していきたいと思っております。よろしく申し上げます。

看護師 山田 明子



本年度より3階（内科・形成外科）病棟の看護師として働いています。病棟スタッフの皆さんだけでなく患者さんやご家族の方とも一緒に「みんなが安心して利用できる病院」をめざし頑張っていきたいと思っております。宜しくお願い申し上げます。

医事管理室長 中谷 充久



新任の中谷です。右からも左からも聞こえる用語は初めてのことばかり。現在の環境に早く慣れ、羽咋病院の活性化が図れるよう頑張りますので、よろしくお願いたします。

臨床検査技師 安部 理恵



病院勤務は経験者であります。羽咋病院ではピカピカの1年生です。皆さんに色々教えて頂きながら、早くこの病院の一員として役に立てる仕事ができるように頑張りたいと思っております。よろしくお願いたします。

看護師 砂田 未来



4月から羽咋病院でお世話になります。砂田未来です。未熟者ですが、患者様が安心して療養生活を送れるよう看護させて頂きたいと思っております。また、毎日の笑顔を忘れず頑張りたいと思っております。よろしくお願いたします。

看護師 竹津 尚子



地元で働けることになり、とても嬉しいです。結婚し羽咋に来ましたが、今まで七尾で働いていたので、実は羽咋のことをよく知りません。羽咋の頑張るナースとして頑張るので、地元の話色々聞かせて下さいね。

看護師 天内 友美



4月から血液浄化センターで勤務することになりました。天内友美と言います。約2年ぶりに看護師として病院で働きます。毎日、楽しく笑顔で頑張りたいと思っております。よろしくお願いたします。

# 緩和ケアをご存じですか

内科 西野 隆平

緩和ケアという言葉をご存じでしょうか。

現在、本邦の死因の多くは悪性腫瘍、つまりがんです。統計では日本人の2～3人に1人はがんで亡くなっている計算です。これに対し国も対策に力を入れています。それでも残念ながら進行した状態で発見され痛みなどでつらい思いをする場合があります。また早い段階で発見されても、治療中に様々な苦痛に苦しまなければならないこともあります。こうした苦痛に対処する医療を「緩和ケア」と呼びます。もちろん癌に限らず、様々な病気による苦痛を和らげることを意味しますが、がん治療の一環として今では必須とされています。

患者さんからは「進行がんになると痛みが心配」という声を聞きます。しかしがんによる苦痛は痛みだけではありません。吐き気や食欲の低下、だるさ、息苦しさなど、様々な症状があります。ほんの十数年前まで、進行がんへの治療は手術や抗がん剤など、がんを治そうとする治療ばかりが注目されていたため、例えば手術後の痛みや、抗がん剤の副作用（吐き気など）への対応は二の次にされていたことが多く、患者さんが我慢するしかないこともありました。ですが現在の癌治療は「がん自体に対処する治療」と同時に「症状を和らげる治療（緩和ケア）」を行うことが強く勧められています。これはがん治療を続けていく上で非常に大切です。痛みが強くてつらい思いをしたまま、「がん自体に対処する治療」に集中することは難しいからです。

緩和ケアを行うための薬剤の発達もめざましいものがあります。例えば痛みを抑える薬としてモルヒネなどの医療用麻薬があります。以前は注射や飲み薬しかなく、その種類は非常に少ない上に副作用も多いため、患者さんの状況に応じた対応が難しかったのですが、今では貼り薬が登場し、更に副作用の少ない飲み薬や副作用をおさえる薬も判明し、非常に苦痛がとれやすくなりました。

そして入院せずに、近隣の病医院や訪問看護、各種サービスを利用して在宅で治療を行うことが可能となっています。もちろん患者さんの状態にもよりますが、症状が和らぐことで日常生活をこれまでどおり過ごしていけることが多いのです。症状を緩和するために入院を必要とする場合もありますが多くの場合は症状が軽減して退院され、もとの生活に戻ることができます。

当院でも緩和ケアチームを中心に、積極的に症状の緩和に取り組んでいます。退院後の生活についても医療サービス推進室と連携し治療が続けられるように努めています。「がんだからつらくても仕方がない」とあきらめる必要はありません。苦痛のある方はぜひ担当医にご相談下さい。

## 家庭で役立つ医療情報

### 「いい人生だった」と思えるために

当病院の緩和ケア委員会では、第1、3水曜日の午後より、がん患者様が入院されている病棟を回り、カルテを見ながらがんによる症状の緩和や、痛みに対する対策が取られているかなど話し合っています。メンバーは、医師・看護師・薬剤師・栄養士・理学療法士で、それぞれの立場から意見を出し合い、よりよいケアの提供を心がけています。

治療の甲斐なく終末期になり治療が出来なくなっても、人として出来ることがあります。それは「心にかける」事です。「心にかける」とは、患者様やそのご家族に対し「共にいる、共に泣く、共に苦しむ、痛みを共にする」という意味です。これらを行う事により、患者様が少しでも「いい人生だった」と思うことができ、ご家族が穏やかに看取る事が出来るよう援助したいと考えています。



終末期の患者様が「自宅に帰りたい」、家族が「連れて帰りたい」と望まれた時には、病棟担当看護師やソーシャルワーカーと連携して、その環境を整える為の支援もおこなっています。お声を掛けてください。

緩和ケア委員会 主任看護師 平 真由美

## 連携医療機関のご紹介

当院は開業して来年ではや 20 年が経とうとしております。

日頃から羽咋病院さんには患者様の紹介などに際し、大変お世話になっております。地域連携室を通じて、紹介だけでなく検査予約などの状況もスムーズに確認でき、地域の中核病院として、開業医レベルでは対応しきれない各専門分野の新しい診断や治療などを、羽咋病院さんを通じて患者様に提供できる安心感を頂いております。

医療が細分化し、患者様のニーズが増える中、羽咋病院さんにご無理をお願いすることもあるかもしれませんが、今後ともよろしくお願い申し上げます。

松江時彦先生

松江外科胃腸科医院

住 所 羽咋市松ヶ下町松ヶ下 6

電 話 22 - 7888

診療科 内 科

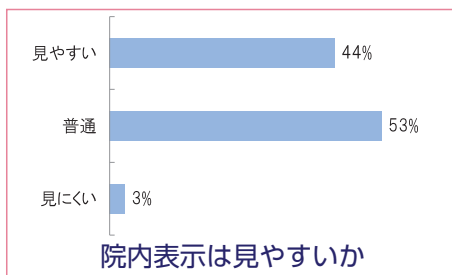


## 外来満足度調査の結果報告

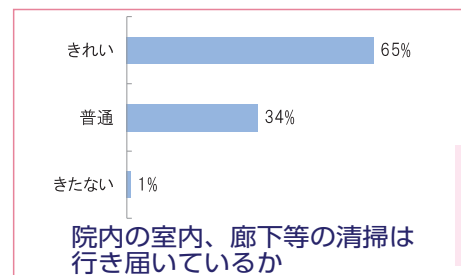
昨年 10 月に当院で受診されました患者様を対象に、外来での満足度についてアンケート調査をお願いしました。多くの方々からご回答をいただき、誠にありがとうございました。

アンケートでは多岐にわたる項目にお答えいただきましたが、回答や意見から、患者様の当院に対する考えやご意見を知ることが出来ました。

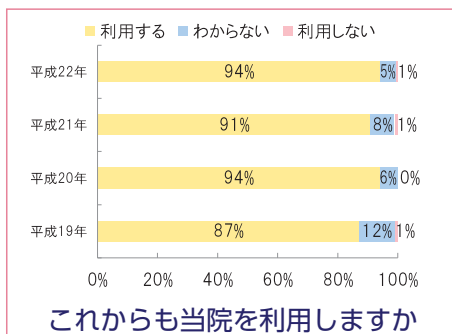
その集計結果の中から、一部ですが紹介いたします。



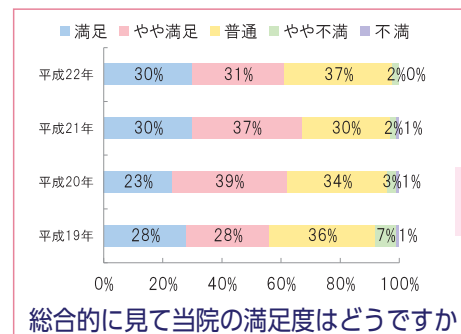
- ・満足度が大きいのは、見やすいで 44%
- ・見にくいのは 3% ありました。



- ・満足度が大きいのは、きれいで 65%
- ・きたないが 1% ありました。



- ・満足度は一昨年に次ぐ良い結果でした。
- ・利用しないが 1% ありました。



- ・満足度は昨年と同じくらい良い結果でした。

- ・今後入院が必要となった場合、当院を利用しますかについては 74%の方が利用すると答えられています。(昨年度より9ポイント増えました。)
- ・昨年度より外来部門の改修を行ない患者様の満足度が増加しました。

今後、アンケート結果に基づいて、患者様サービスの向上に努力を重ねていきたいと思っております。

また、日頃から皆様から寄せられております。ご意見・ご要望とあわせ、更なる改善に取り組み「人にやさしく、信頼される病院」を目指していきたくて考えております。

接遇委員会





有効期限 平成 23年 4月 15日

# 東日本大震災災害派遣

去る3月11日の東日本大震災後、羽咋病院では放射線被曝調査1班と医療チーム2班を派遣しました。

## 【第1班 福島第一原発事故における放射線被曝調査】

私たちが少しでも被災され方々への力になれたらという気持ちを持ち、福島県に向かったのは3月16日でした。

鵜浦病院長はじめ看護師・診療放射線技師・事務記録員の4人構成で郡山市や県中南部の西郷村にて住民の放射線被曝調査に行っていました。原子力建屋の情勢不安の連続時期でしたが、私たちが滞在した3日間での調査数、二百数十名の方々には異常が見られませんでした。ただ衣類や鞆等に調査依頼を求めるほど住民不安が高まっている時期であり放射線に対するご質問も相次ぎました。自宅倒壊や原発避難区域の退去命令にて多くの方々が不安の中、被曝調査にて異常なしと判定された子供たちが笑顔を振り舞い、周囲を明るくしていることが印象的でした。

この未曾有の大震災での早い復興を願い、亡くなられた方へのご冥福、被災者皆様のご健康をお祈りいたします。

放射線科 主任放射線技師 井戸 浄清

### 西郷村 災害対策本部内



佐藤村長さんと  
鵜浦病院長



放射線量測定

## 【第2班 医療支援】



3月11日の最大震度7の地震と大津波で、被害にあわれた方々への医療提供のために、医療チームとして3月26日～29日に宮城県南三陸町へ小児科医師1名、看護師2名、事務調整員1名の4名で活動を行って来ました。

自分たちのチームは、小児科診療に加え、かろうじて家は流されなかったものの、電気も水もガスもない自宅での生活を送っている方への医療活動を行いました。ガソリンの不足で避難所へこられない方や、避難所での診療所開設を知らない方に対し、保健師と連携し巡回戸別診療を行いました。

南三陸町は早期の復興が困難であるため、集団避難が実施されました。故郷を離れねばならない悔しさや悲しさは計り知れないものがあります。

亡くなられた方へのご冥福をお祈りし、被災された皆様のご健康をお祈りいたします。

災害委員会 副看護師長 森本ゆかり



4月12日～15日には第3班を宮城県石巻市へ災害派遣しました。今後も救援活動に参加していきます。

# 新人看護職員就職前研修を行いました



今年度就職される看護職員の方を対象に、「看護職員として必要な姿勢及び態度並びに新人看護職員が卒業後1年間に修得すべき知識、技術の実践能力向上」を目的とし、3月下旬に5日間に渡り講義・実践の内容で研修を行いました。今後、新人看護職員が臨床現場に順応し、臨床実践能力を獲得するために、周りの全職員が根気強く暖かい支援を継続し、共に支え合い成長することを目指し教育委員会としてサポートしていきます。

教育委員会 主任看護師 栗原 優子



「研修では、勤務する中で必要な知識や技術を一つひとつ丁寧に教えて頂きました。実際に使用する物品を用いての技術体験では、安全に行うための注意点などについて各分野の専門職の方々に指導して頂き、その根拠に基づきながら学ぶことができました。研修で学んだ看護の知識・技術を活かし、今後も頑張りたいと思います。」

4階病棟 砂田 未来

## 「症例検討会」 「開放病床運営委員会・ 病院機能分化推進委員会」 開催される

開放病床登録医の先生方と羽咋病院の医師との症例検討会及び運営委員会を2月28日19時より開催しました。

開催に先立ち、松沼羽咋郡市医師会会長より、診療所・病院・訪問看護・ケアマネージャーとともに在宅医療をやっていききたい」、鶴浦病院長より、「診療所と病院は車の両輪として医療を提供していく必要がある」との挨拶後、当院の内科谷口医師より「インクレアチン関連薬の使用症例」、外科富田医師より「外来化学療法」として当院での症例を紹介し、意見交換をしていただきました。

その後「紹介患者様病床利用・高額医療機器利用・開放病床利用状況」について医療サービス推進室より中間報告を行い、協議等をしていただきました。

医療サービス推進室室長 嵐 公江



## 第3回院内発表会を終えて

当院では、平成19年度から院内職員が全員参加できる院内発表会をスタートしました。院内職員教育の一環として、日頃の研究成果を発表する場です。初回より、メインテーマを『チーム医療』に決め、各職種の相互理解・専門職としてのスキルアップ・患者様への医療の質を問いかげながらすすめてまいりました。医師をはじめ各職種・委員会から、医療安全・業務改善・臨床能力向上・健康教育など多方面の発表が11題ありました。講評は北里大学基礎看護学講座講師中山栄純先生（羽咋市出身）と鶴浦病院院長でした。ピリカラ講評も例年好評です。さらに地域の皆様に良い医療を提供するために、

院内発表会の継続と発展を願い、今後も企画していきたいと思っております。

院内発表会企画委員  
副総看護師長  
川畑 信子





# 小児科の新しい診療体制

小児科		月	火	水	木	金	土
午前	1診	石田	石田/佐藤	犀川	石田	石田	石田
	2診	北岡	北岡	北岡		北岡	北岡
午後	1診	石田	石田	北岡 又は 石田	石田	石田	
	2診	北岡	北岡			北岡	

犀川医師（血液・腫瘍） 毎週水曜日午前

佐藤医師（小児神経） 毎月1回第4（変更もあります）火曜日午前

## ボランティアの集い

羽咋病院では、ボランティアの方に病院案内と折り紙教室の活動をしていただいています。2月28日に実施したボランティアの集いでは、それぞれの活動を振り返って、感想を話し合い、感謝状をお渡ししました。「いい経験をさせてもらっている」、「これからも続けていきたい」等の言葉を頂き、病院職員としてうれしく、感謝の気持ちでいっぱいでした。歴代の折り紙教室の作品を見ながら、お茶を飲み、なごやかな時間を過ごしました。お互いの意見交換の場として、今後も機会を設けていきたいと思いました。

医療サービス推進室  
社会福祉士 中村 麻有子



## 病院ボランティア募集

あなたの心を形にしてみませんか？

羽咋病院では、ボランティア活動をされる方を随時募集しています。

興味のある方はどなたでもご相談ください。

### ボランティア内容

#### ☆患者様の病院案内

受診や病院内移動のお手伝い



#### ☆お話し相手

ベッドの側や、一緒に散歩をしながら、ゆっくりとお話をしたり聞いたりすることです



#### ☆その他

ご希望により検討させていただきます  
(花作り、草むしり、車椅子磨き、掲示物張替え等)

公立羽咋病院 医療サービス推進室  
Tel 0767-22-1264(直通)まで

## やすらぎコンサート

3月3日 1階情報プラザ前ホールで 毎年恒例で来て下さるチェリーブロッサムの皆様による合唱がありました。ちょうど当日は桃の節句と重なりうれしいひな祭りを始め、懐メロやつい口ずさみたくなるような楽曲が数多くありました。

患者様や家族の方々がたくさん集まり、心地よいハーモニーに耳を傾け、和やかな雰囲気です。ホールは包まれました。



## ありがとうございます

### ♥なぎさ表紙絵手紙

辻口 敦子様

♥写真 羽咋写真協会の皆様

♥絵画 羽咋美術協会の皆様

♥園児の絵 千里浜保育所の皆様

(将来の夢)

栗ノ保保育所の皆様

(チューリップと蝶)

♥干支(うさぎ)の額  
出戸 清隆様

